



©Yuki Asada

マヤ文明のカードに思いをのせて

ある日の昼下がり、どこからともなく楽しそうな笑い声が聞こえてきた。その声に引き寄せられ、民家の一角をのぞいてみると、数人の女の子たちが集まって何やら作業している。手元には、真っ白な紙と色鮮やかな手織りの切れ地。「オリジナルのカードを作っているのよ」とびきりの笑顔で、そう教えてくれた。

ここは、マヤ文明が色濃く残る中米のグアテマラ。標高2,000メートルの農村部ソロラは、世界一美しいといわれる湖を望む山あいの街だ。美しく豊かな自然に囲まれ、日々食べていくには十分。でもまだまだ貧しい家庭も多く、小学校を卒業したら、家のお手伝いをして過ごす…。そんな女の子も少なくない。

みんなが夢を持ち続け、前向きに生きられるよう、何かできることはないだろうか。この地の子どもたちに教育支援を続けてきた白石光代さんが思い付いたのが、伝統衣装ウィピルを使った雑貨作り。その第一弾が、このカードだ。

カードの様子はさまざま。それぞれの形に合わせて型紙を作り、この地で代々受け継がれてきた織物を組み合わせ、切り張りしていく。「彼女たちのアイデンティティーであるウィピルを通じて、日本との懸け橋となるような商品が生み出せれば」。白石さんはそう期待する。

大切な人に贈るメッセージ。マヤの女性たちの思いがたっぷり詰まったカードで届けてみては。



カードの模様に合わせて型紙を作る。作業場はいつも笑顔であふれている

★カードを5人にプレゼント! → 詳細は38ページへ

★グアテマラのフェアトレードショップ「セミージャ」(semilla.ocnk.net/) で購入可能

